

《沖縄協同病院の理念》

- 人権といのちの尊厳を守る、無差別平等の医療を行います。
- 地域と共に平和で健康に暮らせる、まちづくりを行います。

はいさい

《沖縄協同病院医師研修理念》

- 基本的診療能力を身につけることを第一の目標とし、患者を「一人の人間」として捉え、「患者の幸せ」を追求できる医師を養成します。

母国インドネシアへ帰りたい!

2023年8月全身性の痙攣発作で救急搬送されてきたのはインドネシアの21歳女性でした。他の病院に2回転院しながら最終的には当院で治療継続し状態が安定しました。

まず難題だったのは日本語が全く通じないことでした。翻訳機やピクトグラムを作成しケア介入を試みました。しかし、異国での入院生活は私達が想像する以上の恐怖と不安があり、時にはケア介入を拒否したり、急に大声で泣き出したり、何故私はここにいるの?と現実を理解できずに苦しんでいる姿を見てスタッフも心を痛めていました。どうしたら患者の不安を取り除けるか?母国に帰ることができるのか?色々悩み試行錯誤する日々が続きました。毎週水曜日にはインドネシアの両親とリモート面会を行い励まして勇気づけてもらいました。多職種カンファレンスでインドネシアへの帰国に向けて準備を重ね、金銭面での課題は医療生協スタッフ・組合員さんへ募金協力を依頼し沢山の方が賛同してくれました。本当にありがとうございました!2024年7月5日医師・看護師が同伴し、インドネシアの病院へ無事転院することができました。

今回のケースは民医連の無差別平等の理念が国境を越えて実践することができた事例でした。スタッフの優しさ、多職種のチームワークの良さを改めて実感し今後も質の高い看護・チーム医療を提供していきたいと強く思いました。

5階病棟師長 平良 理奈



＜ご意見＞

毎回マイナンバーカードの提示で機械の読み込みをお願いすると、面倒くさい態度をとられます。忙しいのは分かりますが、気分が悪くなります。薬局や他病院などは、受付テーブルに設置されているのに、ここの病院は、なぜ設置されていないのですか?今すぐ受付テーブルへの設置をお願いします。

＜ご回答＞

この度は、貴重なご指摘・ご意見をいただき誠にありがとうございます。

マイナンバーカードの読み取り機器の設置について、これまでご不便をおかけし申し訳ございませんでした。ご指摘があった通り、マイナンバーカードを提示いただいた患者さんに対し、スムーズに対応できるよう総合受付窓口へ設置いたしました。

また職員の対応について、不快な思いをさせてしまい申し訳ございませんでした。部署内で今回の指摘を共有し、接遇も含め改善してまいります。

医療事務課 課長 伊集 守専

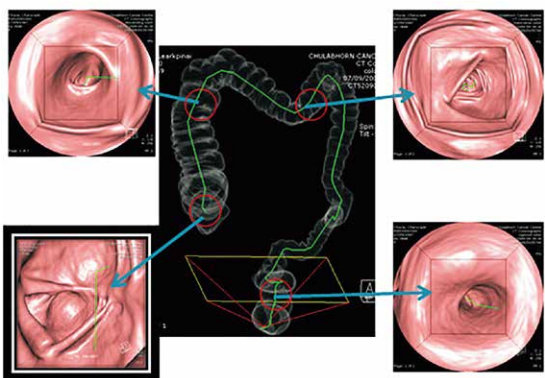


病院の活動状況 <2024年6月度>

- ・外来一日平均患者数：342人（前年同月比 -1人）
- ・入院一日平均患者数：271人（前年同月比 +10人）
- ・組合員利用分量(率)：52.5%（前年同月比 -7.1%）

大腸癌検査

いさぎよい 210 消化器内科より



大腸CTコロングラフィーは非侵襲的な検査です。肛門から細いチューブを数cm挿入して炭酸ガスを注入し、大腸内を膨らませてCT撮影し、CT画像をもとに3次元画像を作成し、画像診断を行います。内視鏡検査と同様に前処置(下剤の服用)を行う必要がありますが、内視鏡検査と比べて体の負担が少なく、癒着や狭窄などで内視鏡が通過しづらい方でも検査を行うことができます。ポリープとしてはポリープを見つけても切除できない、放射線被爆などがあります。

冒頭でも説明しましたが、早期大腸癌は無症状のことがほとんどです。痔があっても大腸癌の可能性を安易に否定せずに二次精査を受けることが必要です。内視鏡検査(大腸カメラ)はつらい検査と考えている方が多いと思います。現在は、内視鏡機器の性能が向上し、希望があれば鎮静・鎮痛剤を使用することも可能です。

大腸癌の罹患率・死亡率は全国的に増えており、沖縄県も例外ではありません。男性の大腸癌死亡率は肺癌に次いで2位、女性は1位です。大腸癌は進行癌になるまでは自覚症状はなく、早期発見・早期治療が大切です。大腸癌検診の便潜血検査で陽性になっても精密検査(二次精査)が行われないことが問題となっています。その理由として、『忙しい』、『症状がないから大丈夫』、『痔が原因と思った』、『内視鏡検査が怖い』などがあります。



大腸癌は進行癌になるまでは自覚症状はなく、早期発見・早期治療が大切です。大腸癌検診の便潜血検査で陽性になっても精密検査(二次精査)が行われないことが問題となっています。その理由として、『忙しい』、『症状がないから大丈夫』、『痔が原因と思った』、『内視鏡検査が怖い』などがあります。

患者さんの希望に応じて安心・安全に検査を行うように努めてまいります。便潜血陽性の方は必ず二次精査を受けていただきますようしくお願いたします。

内科部長 消化器 永村 良二

看護師確保をめざして (就職説明会 in 奄美大島)

7月5日、5階病棟の平良理奈師長と一緒に奄美大島へ行ってきました。目的は奄美看護福祉専門学校が主催する就職説明会へ参加し、沖縄医療生協についてプレゼンを行うためです。

学校は市街地から離れた所にあり目の前が海でのどかな雰囲気のある学校でした。説明会は21の事業所が参加しており、沖縄県からは沖縄医療生協を含め5病院が説明を行っていました。1年生から3年生まで110名の学生が、希望する事業所で、就職情報を真剣な表情で聴いていました。学生の3割は沖縄県出身者であり卒業後は沖縄に戻る予定者が多いようです。その沖縄に帰る学生が、一人でも多く沖縄医療生協に就職してくれればと思います。写真を沢山取り入れたプレゼンを行いました。将来の展望をしっかりとった学生が沖縄医療生協で働いてくれる事を期待します。

2024年度 総代会スローガンの一つでもある看護師確保のためにも来年も継続参加し、一人でも多くの看護師就職に結び付けたいと思います。

看護部 副総看護師長 保村 育子



九州沖縄ブロック組合員交流研修会

7月16日～17日に佐賀県唐津市で開催された九州沖縄ブロック組合員交流研修会に参加してきました。5年ぶりの開催ということでしたが、各県から沢山の組合員の方々が参加していました。



今回の開催目的は、各県の組合員活動の実践を持ち寄り、意見交流を行い、より豊かな組合員活動を広げる機会とする。平和とくらし、健康をめぐる情熱を学び、医療福祉生協活動への確信を培う場とする。交流を通して、九州沖縄ブロックの連帯を深め、ブロック全体の運動発展の契機とする事です。研修を通して印象に残っているのは、佐賀空港のオスプレイ配備の件です。地元住民の同意を得ず、駐屯地建設を強行して行っているということに、沖縄の辺野古基地の代執行が思い浮かび、沖縄だけじゃなく他県も同じような問題を抱えているんだと実感しました。

今、主体となって様々な問題に取り組まれている組合員の方々の活動を若い私たちが学び受け継ぎ、それを声に出して訴えていく必要があると感じた研修でした。

医局事務課 宮里 高広

こんにちは
赤ちゃん
6月生まれ

当院で出生したBabyの写真です



伊波楓夏ちゃん



仲里心翔ちゃん



島袋みなちゃん

部署紹介

皆さんこんにちは。今回は医局事務課の紹介をします。皆さんからすると、「医局事務課」と言われてもピンとこないと思いますが、一言で表すと先生方のサポートをおこなう部署です。先生方の業務上フォローはもちろん、他部署と先生方とを繋ぐ役割も持ち、医局全体の運営を先生方と共にこなします。

直接、患者さんと接する機会はほとんどありませんが、先生方が業務を円滑に進められるよう支えることで、皆さんへの医療提供の質がより良いものになると考えています。組合員コーナーにはたまに出没しますので、ぜひお声かけください!

28 医局事務課



医局事務課 主任 久志 鈴里

委員会活動報告 27.倫理委員会

倫理委員会では、当院で行われる医学的研究及び医療行為について、倫理的配慮がされているか等について審議・提言を行い、毎月1回委員会を開催しています。

委員構成は、知識や価値観等の偏りを避け多角的な検討を保障するために、医療者(医師・看護師・心理士・薬剤師・事務)だけでなく、院外委員(弁護士)も含め構成されています。

倫理的配慮や医学的研究の審査等は、難しい内容ではありませんが、勉強しながら学びを楽しんで活動を行っています。



事務管理部 事務次長 後藤 勝治

この暑さのせい(歳のせい?)で6月からは日の出と共に畑に行っている。8時に帰って来て午後5時まではほぼクーラーの中だ。身近くに迫る熱中症の恐怖の前では電気料やSDGsは吹っ飛んでしまう。この悪循環が温暖化を早めるのは重々承知なのだが...

世界中で洪水や干ばつ、熱波が続発している今、食料自給率38%の日本は致命的である。食料は当然自国民優先で輸出は後回しだ。自給率は後回しに上からない。国民の命を守る気があるのなら戦争の準備をしたり、沖縄県議選工作(米兵による性的暴行事件の公表すら疑惑)をしていない。

これはもう「これまでに...」

「これまでに...」

「これまでに...」

「これまでに...」

「これまでに...」

「これまでに...」

「これまでに...」

「これまでに...」

「これまでに...」

「これまでに...」

「これまでに...」

「これまでに...」